

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

だましたヤコブ



ぶん
文: E. Duncan Hughes

え
絵: M. Maillot; Lazarus

かいさくしゃ
改作者: M. Kerr; Sarah S.

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki
監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2007 Bible for Children, Inc.

きよか 許可: たにん 他人に う 売らない かぎ 限り はなし このお話の また コピー、又はプリントは、
きよか 許可されています。





かみ

神さまは、もうみなさんのおうちに、かわい

あか

い赤ちゃんをとどけてくださいましたか？

それって、ほんとうにうれしいですね。

きっとイサクとリベカは、みんなの

にほい

二倍もうれしかったにちがいあり

かみ

ません。どうしてって、神さま

ふたり ふたご

は、二人に双子をくださったの
ですからね。



ふたご あか

双子の赤ちゃんは、リベカの

なか

おなかの中で大あばれ。

いの

リベカがお祈りしていると、

かみ

い

神さまが、こう言われました。

ふたり おとこ こ

「リベカ、二人の男の子は、

くに

二つの国をつくるだろう。

おとうと ほう

そして弟の方が、

あに

たいせつ

兄よりもっと大切にされ

るようにになるだろう。」でも、

あに

ふつうは、たいてい兄のほうが、

たいせつ

大切にされたのですけれどね。さあ、

あか

う

ついに赤ちゃんたちが、生まれましたよ。



ふたご に

どういうわけか、その双子たちは、あまり似ていませんでした。

兄のエサウは、とても毛深くて、大きくなるにつれて、狩がたい

そう上手になりました。弟 ヤコブは、すべすべの皮ふで、

家の仕事を手伝うのが、大好きでした。お父さんイサクは、兄エ

サウの方を愛しました。また、お母さんは、ヤコブの方が、

好きでした。



ある日のこと、エサウは、おなかがすいてたまりませんでした。「何か、食べるものをくれないか？」エサウは、ヤコブに言いました。「それじゃ兄さん、私

に長男のけんりをくださいよ。」ヤコブ

は、つよく言いました。そのときエサウ

は、長男にくださっ

た神さまのやくそくなど、気にもしませんでした。「いいよ、そうしよう。」エサウは、

ヤコブにそう言ってしまった

のです。こうなると、二人のお父さん

が亡くなった時には、ヤコブがかぞく

の長となるのでしょね。



よ かみ

はな

わたし

ちち

ある夜、神さまはイサクに話しかけられました。「イサク、私はあなたの父アブ

かみ

わたし

ラハムの神である。私は、いつもあなたといっしょにしよう！そして、あなたの

しゅくふく

かみ

おも

しそん をずっと祝 福しつづけよう！」イサクは、いつも神さまのことを思

さんび

むすこ

けっこん

い、賛美していました。でもね、イサクの息子エサウが結婚した

ふたり

かみ

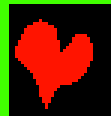
二人のへト人のおよめさんたちは、神さまのことなど、どうでも

おも

よいと思って

ひと

いる人た
ちでした。





とし

イサクは、だんだん年をとってきました。「どう

わたし

にく

た

か、私にしんせんな肉を、食べさせておくれ。」イサ

い

わたし

クはエサウに言いました。「そのあとで、私はおまえ

しゅくふく

しゅくふく

とう

を祝 福しよう。」このとくべつな祝 福は、お父さん

ちょうなん おく

おおいそ

から長 男に送られるものでした。さあ、エサウは大急

かり

ぎ。さっそく狩にでかけました。ところが、リベカ

き

は、これを聞いてしまったのでした。リベカは、ヤコ

しゅくふく

おも

ブが祝 福をうけてほしいと思って

いました。





ひと けいかく

リベカは、一つの計画を思いつ
いそ

きましたよ。リベカは急いでイ
だいす りょうり つく

サクの大好きな料理を作りました。そのあいだにヤコブはエサ
ふく き けぶか

ウの服を着て、毛深いどうぶつ
かわ くび て

の皮をかれの首や手に、まきつ
め

けました。イサクは、目がよく
み

見えません。これで、たぶんリ
ベカとヤコブは、イサクをだま
せるでしょうね。



りょうり

ヤコブは、料理をイサクのところへはこびましたよ。「おまえは、ヤコブのようだね。」

い

イサクは、こう言うから、「あれっ、でも

て げ

おまえの手は毛ぶかくて、まるでエサウの

い

ようだ。」と言いまし

しょくじ

た。食事がおわってか

じぶん

ら、イサクは、自分の

まえ

前でひざまずいている

しゅくふく

むすこヤコブを祝 福

しました。



で い

ヤコブがイサクのところを出て行ってからすぐ、エサウがやってきました。「お
とう た とう だいす しょくじ つく

父さん、さあ、食べてください。お父さんの大好きな食事を作りましたよ。」そ
こで、イサクは、ヤコブにだまされたこと
き

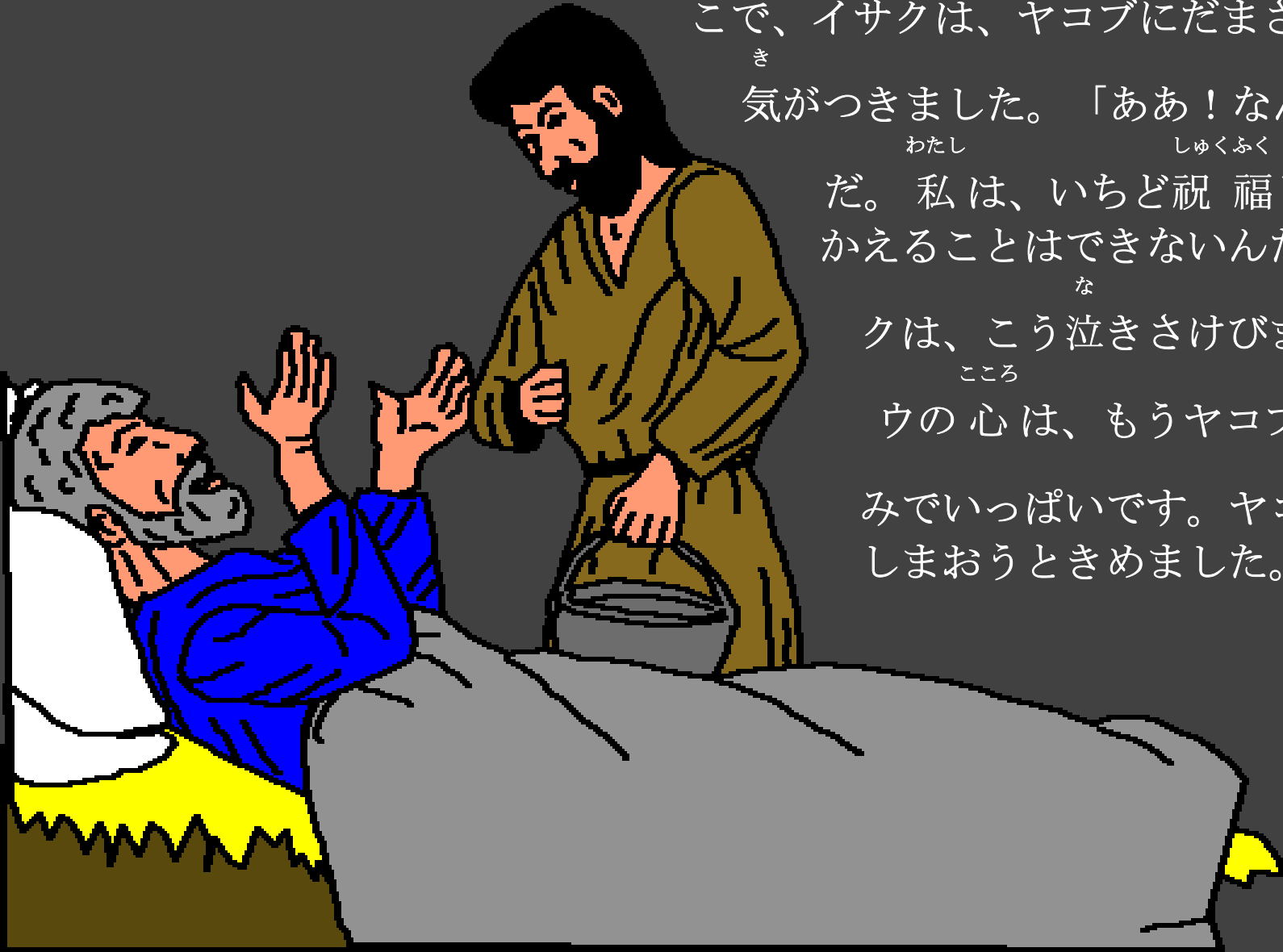
気がつきました。「ああ！なんていうこと
わたし しゅくふく

だ。私は、いちど祝 福したものを、
かえることはできないんだよ。」イサ
な

クは、こう泣きさげびました。エサ
こころ

ウの心は、もうヤコブへのにくし
ころ

みでいっぱいです。ヤコブを殺して
しまおうときめました。



リベカは、エサウがヤコブを殺すつもりだ^{ころ}って聞きつけました。「ヤコブ、大急^{いそ}
ぎ^きでここを出^{いそ}て、おじさんの家^{いえ}にいくんだよ。兄^{にい}さんのエサウが、あなた^{いそ}のした

こと^{わす}を忘^{もど}れてしまうまで、戻^いっては^いいけないよ。

」と、リベカは^いこのよう^いに言^いいました。イサクは、

ヤコブが^{かあ}かれ^うのお母^うさんの生^うまれたところ^うに
行^いって、お嫁^{よめ}さん^{おも}をさが^{おも}せばいいと思^{おも}い、
さんせい^{いそ}してくれ^いました。さあ、ヤコブは、
急^{いそ}いで^いうち^いを出^いて行^いきま
したよ。



よる
その夜の事です。ヤコブは、石をま
やす

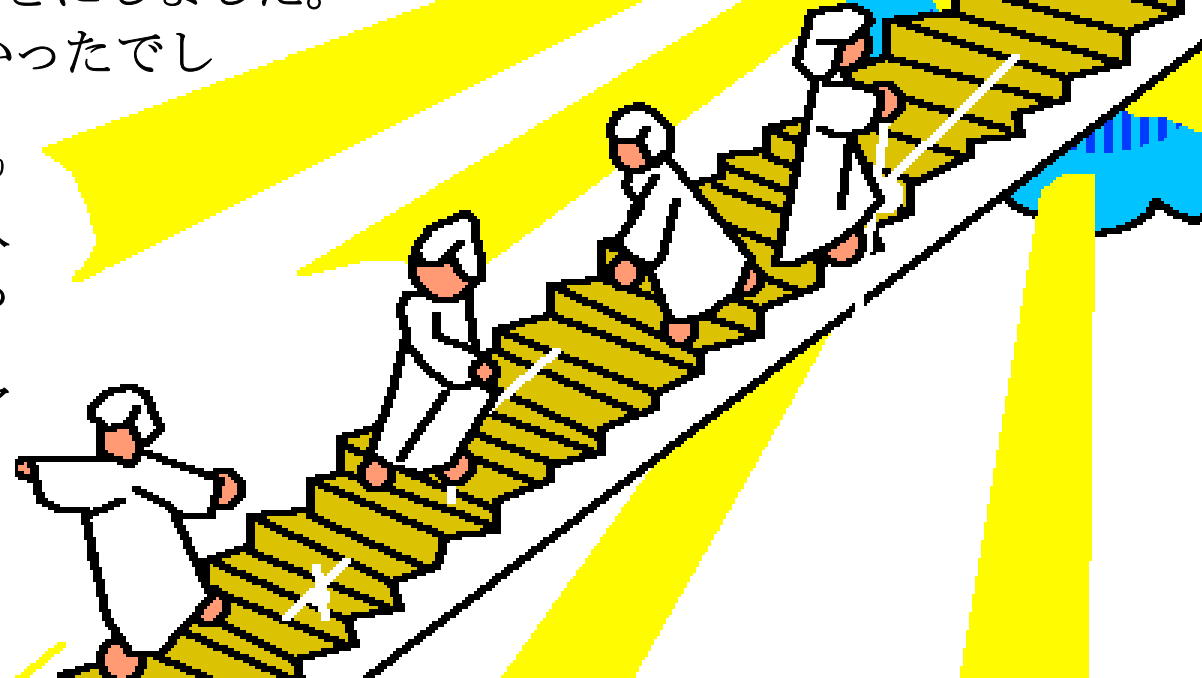
くらにして休むことにしました。

ヤコブは、たぶんさびしかったでし
ょうね。こわかったでしよ

ひとり
うね。でもね、ヤコブは一人
じゃなかったのですよ。だっ

かみ なか
て、神さまが、ゆめの中でヤ
はなし

コブとお話してくださ
ったのですから。



ヤコブのおじさんラバンは、ヤコブをよろこんで迎えてくれました

であ

たよ。そこでヤコブは、いとこラケルに出会い、

す

けっこん

すぐに好きになりました。ラケルと結婚さ

おも

じょ

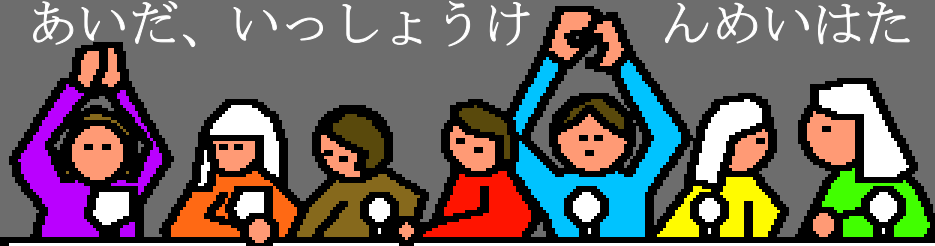
せてもらおうと思った、ヤコブは、かの女

とう

しちねん

のお父さんラバンのところで七年もの

あいだ、いっしょうけんめいはた



らきました。ところが、

けっこんしき よる

結婚式の夜、ラバンはヤコブ

をだましたのでした。

「なんてひどい！ラケルじゃなくて、レアではありませんか。」ヤコブは、おこって言いました。「あなたは、私をだましたのですね。」「いやいや、ここではね、一ばん上のむすめが、はじめに結婚せにゃならんのだよ。」ラバンは、こう答えました。「まあね、あと七年はたらいてくれるのなら、ラケルともすぐに結婚できるよ。」そこで、ヤコブはそうすることにしました。たぶん、このときヤコブは思い出し



たでしょう。まえに、
ちち あに
父イサクと兄エサウ
をだましたことをね。



いつのまにか、ヤコブは、もう11人もの息子
にん むすこ
とし
たちがいました。年がすぎてゆくにつれ、ヤコ
じぶん かえ
ブは自分のかぞくをつれて、カナンへ帰りたく
とう
てたまらなくなりました。ヤコブのお父さんや
かあ
お母さんがそこにいるのです。でも、ヤコブを
ころ あに
殺すとちかっていた兄エサウもね。



かえ

ひ かみ

帰ってもだいじょうぶかな？ある日、神さまは、

い

かえ

ヤコブに言われました。「帰りなさい。」そこで、

じぶん

ヤコブはすぐに、自分のかぞくやヒツジやヤ

いえ

ギのむれをあつめ、なつかしい家にむかっ

しゅっぱつ

て出 発しました。



たび

それは、なんておおぜいの旅だったことでしょう。

よんひゃくにん ひと

そこへ、なんと四百人もの人たちをつれたエ

あ

サウがヤコブに会いにやってきましたよ。

けれどもエサウは、ヤコブをやっつけ

き

るために来たのではありません。エサウ

はし

だ

は、ヤコブのところに走りしっかりと抱

きしめたのです。いまや、ヤコブとエサ

きょうだい

ウは、すっかりなかよしの兄弟でした。

こうして、とうとうヤコ

ブは、

ぶじに

いえ

家までもどれたのでした。



だましたヤコブ

かみ み せいしょ する
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

そうせいき しょう しょう
創世記 25 章 - 33 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っています。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、思っています。それを、神さま
は、罪とよばれています。その罪のむくい、死です。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをとて愛していますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく つみ しゅうじかじょう な
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのです。もし、あなたがイエスさ
しん
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて
わたし なか き つみ わたし いま
いらしています。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

